

## 日常に漆器のある暮らし

木とうるし 源・香  
(今在家町)

普段の生活に彩りを

阪急庄内駅から歩いて20分ほど、所々畠が残る風景の中に、漆作家である林源太さんの工房兼ギャラリー「木とうるし源・香」があります。そこには座卓や棚といった家具からお椀やお皿などの器まで、多彩な漆塗りの作品が心地よく並べられ、一つひとつつくりと鑑賞することができます。

「漆器」と言つと、高級品、改まつたとき使う器、手入れが難しいと敬遠されがちですが、口に触れるときの温かみや自然の柔らかな色合いなど、漆の素晴らしいを知つていただきたい。何度も重ね塗された漆は堅牢で、普段の暮らしで気軽に使つていただけます」と林さん。生活に彩りを添える新しい提案をしていくたいと、作品づくりに日々工夫を重ねて

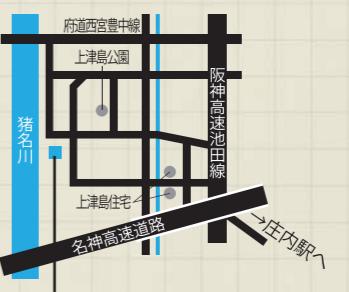
います。なるほど、ギャラリーでは、緑や黄色のモダンな色使いや、不思議な質感の作品などが目に留まります。

**どこにもないような質感やデザイン**

豆腐や植物の種、葉などで質感に変化をつけたりと、塗り方には無限の広がりがあります。制作過程で偶然にできる風合いも大切にして、最近は、緑の透明漆や『いぶし銀塗』など独自の塗りを研究しています。

子どもの頃、レゴや工作が大好きだったという林さんは、作品を構想するときは立体的な造形から発想がふくらむとか。一般的に漆芸では、木地作りと漆塗りは分業の世界ですが、自分の思い描く形を作り上げるため、木地作りから貢して制作しています。木の風合いを生かすため、多種の材木をストックし、また産地ごとに異なる性質の漆をブレンディングして使うなど、素材にこだわります。

「漆は塗料として万能な素材。顔料や染料、金属粉で色合いや光沢を変えたり、



Here

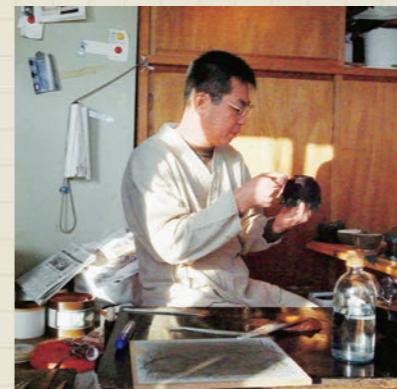
今在家町8-15

電話/FAX: 06-4866-1388

メール: genta\_urushi@mac.com

ホームページ: http://genta-urushi.com

工房・ギャラリーの見学は事前に連絡を。

暮らしと表現  
表現活動は生きる原動力

生活介護事業所  
「糸をかし」  
(服部寿町)

毎日欠かさず行う発声練習と柔軟体操  
立ち稽古で息を合わせます



## 役者としての自覚

「糸をかし」では、障がいのある24人の利用者が食事をはじめとする生活支援を受けながら、ここにやくの製造に取り組んだり、手芸や音楽、書道、体操などに挑戦したりしています。そのなかで人形芝居「ぬくぬく座」と「こまどん」「てんてこまい座」は、利用者と職員で結成された全国でも珍しい取り組み。その実力も様々なところから公演を依頼されるほどです。

## 個性豊かなメンバーによる「こまどん」「てんてこまい座」



保育所、幼稚園、小学校、福祉施設などの依頼公演のほか、自主公演も行います

衣装はちゃんと直せる。役者という自覚と責任感がそうさせているのですね」と西口さん。

## 仕事の責任感とやりがい

華やかな衣装が好きというみんなの天性にぴったり」(西口さん)。「普段は朝なかなか起きないので、ちゃんと起き出かける」と保護者が驚くくらいの仕事への责任感。仕事先では、我先にとせつせとビラ配りを頑張る「こまどん」たち。「地域の人に喜ばれることはみんなのやりがいにつながっています」と西口さん。一人ひとりを深く知り、地域に貢献する活動に結びつけています。「生きることは表現すること」を実践する活動は、演じる人も見る人も座せな気持ちにしてくれます。



地域のイベントや開店セレモニーでは、おひねりをもらうことも



各人の持ち味を引き出すようなストーリーづくりは西口さんの担当。他の職員や外部指導者が衣装や舞台装置を制作するなど、みんなでオリジナル作品を練り上げます。「日常では洋服の着方が変だと言つても聞かない人が、人形劇の

豆腐や植物の種、葉などで質感に変化をつけたりと、塗り方には無限の広がりがあります。制作過程で偶然にできる風合いも大切にして、最近は、緑の透明漆や『いぶし銀塗』など独自の塗りを研究しています。

漆器に対する私たちの固定観念を覆す数々の作品に触れてみてはいかがでしょうか。